

夏本番を迎え 茶処 白川から 緑の風届けます

白川の風



ふるさと茶屋情報誌
2011. 初夏号 vol.37

3月11日(金)に発生しました東日本大震災により、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げ、ご遺族の苦悩に対し、深くお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様とぞのご家族の方々に對しまして心より深くお見慰め申し上げます。被災地の一日も早い復旧復興と皆様のご無事を心よりお祈り申し上げます。

今年の新茶の生産は3月から4月の低温続きの影響で、平年より少し遅れてしまい、新茶のご予約をいただいたお客様には大変ご迷惑をお掛けして誠に申し訳ございませんでした。屋場の茶畑の手入れの積み重ねと全員力を合わせてお茶の収穫と製造に力をそそいだ結果、味・香りともに巨信作が揃いました。引きつづきご愛顧の程よろしくお願ひ申し上げます。

じっくりと成長!

旨みがギュッと詰まった新茶が出来上がりました

今年は冬から春先にかけて全国的な低温傾向により新芽の成長が遅れました。その年の自然環境に對するお茶栽培の難しさを痛感した年でした。

白川茶の産地はお茶栽培の北限地のような寒冷地であり、新芽の抽期は遅く遅霜の影響に悩みます。しかし今年はそのようなこともなく、5月に入ってからの気温の上昇と適度な降雨により新芽も順調に成長し、活気のある茶畑の作業となりました。寒冷地であるこの地形・気候でのお茶の栽培は限界的な部分もありますが、この土地ならではの特徴を活かしながら大量生産では真似の出来ない心を込めたお茶づくりに励んでいます。

作業を進めて行く中、テラス式(階段)の茶畑のお茶刈りは雨の続いた次の日でした。そのため足元が悪い中での作業となりました。刈り



茶の刈り取りの様子



袋を体に巻きつけた

担当長谷部

茶畑日記



日当たりの良いテラス式(階段)の茶畑

取る時、新芽から目をとらすことは出来ずひとつの株の往復をすると足腰に響きます。作業の安全や効率をよくするため合間には足場を作ったり補修をしますが、狭く幅が狭いので慎重に進められています。急な斜面なので株の高さもありお茶刈り機を持ち上げなければなりません。長い距離の株、お茶刈り機の袋を体に巻きつけて新芽を痛めないように袋をこまめに替えます。テラスは乗用機による摘採は無理です。お茶刈り機でいかにていねいに刈り取っていきます。足場の悪いテラスですが太陽の恵みをいっぱい受けるので一段と良質な新芽になりました。

青雲のつどい

カンパレ 中学2年生!



白川町では
14才→立志式
20才→成人式
80才→聖人式
が行われます。

白川町では、人生の1つの節目である14歳を迎える年に、町内3つの中学校(白川中・黒川中・佐見中)の2年生が合同で「青雲のつどい」が行われています。今年は6月15日~17日でした。最初に、白川町町民会館で立志式が行われた後、高山市にある国立兼轄青少年交流の家での2泊3日の研修が行われました。中学2年生の「青雲のつどい」は20年以上も続いている恒例の行事です。2日目には丸黒山の登山がありますが、全員で励まし合いながらの登山は忘れられない思い出となります。年によっては6月でも山に雪が残っていたり悪天候のため、頂上まで登れない年などもありますが、それぞれ年ごとの思い出は今も語り継がれています。3日目は3つの中学校で合唱交流会を行い、日ご3の練習の成果を披露しました。今こそ立志!一人一人が自分の夢や願いを待ち力強く宣言しました。3日間の研修を通して、ひと回り大きくなった2年生を感じました。そして地域の皆が今後の活躍を期待しています。